

## 二つの女性山岳クラブ

式 正 英

山登りは別に地理学には関係はないが、山好きが地理の道を選ぶケースは多い。筆者を含めて旧制一高の山岳部出身者で東大地理にすすんだ者は3名、東大の同級生7名のうち3名までが旧制高校の山岳部に席をおいていた。お茶大ではこれ程歴然としてはいないが、やはり地理の学生の中に山好きは多いように思う。古川晶子（8回生）さん等が山岳部を創った時、就任間もなくだった筆者が顧問にさせられた。その後も星野美津子（15回生）さんや鈴木みやこ（15回生）さんが加わって、山岳部は一時盛んなクラブ活動を続けていたが、10年程経つ内に次第にか細くなり、活動している話しはこの所全く聞いていない。

現在はワンダーフォーゲル部の顧問をしている。志田麓（ドイツ語）先生が創設以来ずっと顧問を続けて来られたが、3年前に退官された折、筆者に顧問を譲っていかれた。ここで登場するのが「いわひばり会」というワンゲルOG会である。毎年微音祭の頃その総会が開かれるが、一度お招きを受けて伺って見て驚いた。昭和30年頃のワンゲル1回生から連年のOG諸氏が50人以上も出席しておられたろうか。現役学生も参加してまことに賑やかで和やかな、そして熱の入った集会であった。志田先生は一般教育担当で専門の弟子をおかれなかった代りに、いつの間に、課外活動でこれだけ「山の弟子」たちを育てられていたことと、そして自づと人を集める先生の人徳の素晴らしさに改めて敬服した次第である。しかも驚いたことに卒業後、教室ではお目にかかることのなかった地理学科の卒業生に3人以上も出会った。やっぱりここでも山好きの地理出身者が多いことが実証された。このOG会は年間計画をたて夏山にスキーにそして現役との合同山行にと、絶えることなく活動を

続けている。登山というスポーツが年齢に応じて内容を調節できるのは強味だし、一生楽しめるから後輩との共通の話題も尽きない。創設時のメンバー平野美那世（食物学科非常勤講師）氏が自宅のサロンを会員のために開放され、会の図書などを保管されている熱心さも運営の要になっている。

「エーデルワイス・クラブ」の名前は御存知の方もおられるだろう。女性だけの社会人山岳会であり、会長は登山家の坂倉登喜子氏である。会員約300名、25年の歴史があり、アンデスやヒマラヤにも遠征している。高山にエーデルワイスをもとめてトレッキングをするようなワンゲルの登山に特色があり、毎月何パーティもの登山計画を実行している。初歩的な指導から始まり、女性らしい山登りに必要な技術の向上を目ざしているから、内容的にもカメラ、植物、コーラスと多彩である。さう云えば毎年6月の上高地の山開き「ウェストン祭」にはエーデルワイスのコーラスは付き物である。

さて昨年11月にこのクラブの月例会で「山の地質」について話す機会があった。勤め帰りのOLや主婦が何とか夕刻の時間をひねり出して集って来る。60名ほどの会員はまことに熱心に筆者の話に耳を傾けてくれた。学会の例会のように閑散とした集まりではなく、大学の講義室で見かける居眠り姿も見られない。質問も活発に出て、山で体験した自然の不思議さを知りたいと云う意欲が感じられ、後の気分は頗る快いものであった。坂倉会長の人を集める魅力が、この好い雰意気のクラブを続けさせて来たものと思う。この人を得た二つの女性山岳クラブは夫々個性的に永続してゆくと思われる。「地理好き」のグループもこんな風にはゆかないものであろうか。